

## 晴天のなか、2月11日に、百里初午まつり 開催！

### 百里平和公園で「基地をなくせ」の声高らか！

今年度は百里基地反対闘争60周年に当たります。この記念すべき2017年百里初午まつりは、冷たい風が吹く晴れ上がった空の下、300人以上が参加しました。

準備する人たちは早朝の8時前から公園に集合。百里基地反対同盟の赤飯は10時には出来上がり参加者に配布されました。また乾燥イモや杵つき餅、甘酒、トン汁、モツ煮などの出店も開店し、参加者は思い思いに買い求めました。

式典は12時から始まり、平和委員会事務局長の司会で、百里基地反対同盟・梅沢委員長、百里弁護団・内藤弁護団長が挨拶しました。

元百里基地懇談会の松原事務局長による「乾杯」のあと、「百里基地反対連絡協議会＝百里連協」メンバー団体である茨城平和擁護県民会議・鈴木代表、茨城県平和委員会・水野代表理事、農民運動茨城県連絡会・入江書記局長、社民党県連合・井坂副代表、日本共産党茨城県委員会・大内副委員長、新社会党・前馬水戸総支部委員長、日本山妙法寺からの挨拶を頂きました。それぞれに「戦争法の廃止」「共謀罪は許されない」「百里基地反対闘争の思い」「軍事基地は命の糧を生み出せない。百里基地を撤去してイモ畑に変えたい」「市民連合に結集して安倍政権を退陣に」「総選挙で国会の議員構成を変える」などを訴えました。最後に百里平和委員会・栗又事務局長によるアピール文採択で式典が終了しました。

司会は「うたごえ」の大名さんに代わり、新婦人の会や日本航空争議団のアピール、大型バスで駆けつけた東京平和委員会のリレートークや歌などが披露されました。演奏は筑西から駆けつけたヒューマンファーマーズ。参加者はそれぞれの力を競い合う中で、平和への取り組みや連帯を確認しあいました。



【風の中、熱気あふれる】



## 東海第二原発の「20年延長申請」を止めるには市民・住民の立ち上がり、運動にかかっています

【2017年2月6日 日立市 荒川照明】

### 1、「20年延長申請」「特別点検」

38年超えの老朽東海第二原発を、さらに、20年延長の申請期間は、今年8月28日～11月28日の3か月間です。その前に20年延長の「特別点検」（压力容器他の劣化状況点検）が必要で、その結果を申請時に提出しなければなりません。「特別点検」期間は6か月余（関電高浜1、2号・美浜3号原発の実績）かかるため、「特別点検」実施申し出は3月～5月頃と予想されます。60年運転にするのか、廃炉にするのか、選択が目前に迫っています。

### 2、日本原電の動き

原電は、東海第二原発の新規制基準への適合性審査は「再稼働に直結するものではない」、げんでん状況報告会では「20年延長申請は白紙」、1月初の記者取材で社長は「現段階で20年延長申請は最終的には決めていない」等と言って、再稼働の有無をあいまいにしてきました。ところが、2月1日東京新聞は、原電社長が12月の6首長との非公開懇談会で「安全協定は再稼働まで規制せず、再稼働後に見直し協議を先送りしても問題ない」との見解を示した、と報道しました。これは株主の東電、各電力会社の強力な再稼働方針を原電社長が代弁させられたものだと思います。安倍政権は「世界一厳しい規制基

準で認可された原発は再稼働する」と言っています。原電は20年延長を申請し、規制委員会の審査適合を取って再稼働を目指しているのは明らかです。これを打ち破るには、「20年延長申請、再稼働に反対する」一人一人の本気の立ち上がり大きな運動が必要となっています。

### 3、市民・住民の立ち上りを

今年に入り、東海村近郊の市民・グループ・団体等が集まり新たな運動を広げています。「東海第二原発問題相談会」は、1月「さよなら原発」ニュース1号を東海村全戸（1万5千戸）にはほぼ配布完了したそうです。今後2か月ごとにニュースの全戸配布を行う計画です。茨城県平和委員会は毎週水曜日、村内でスポット演説を始めました。乗用車で回り、のぼりを立て、この間100か所余で訴えています。廃炉ポスターも昨年続き2月にも新たに貼り出されます。ニュースと声とポスター等で村内に風が吹き始めています。「20年延長申請反対」「安全協定見直し支持」の署名は、東海村長に2回目を提出し、それぞれ4万筆を超えています。もっともっと署名も必要です。

目前に迫る「20年延長申請」をさせないため、多くの方々の方々の各行動への参加をお願いします。自らの命と子・孫の未来のため、故郷のため、放射能被害のない、原発のない東海村・茨城にしていきたいと思います。